

ニュースリリース

2006.7.9 《日航御巣鷹墜落犠牲者遺書展示》

1985年8月12日、御巣鷹尾根に墜落した日航ジャンボ機での犠牲者が書いた遺書が、10日から「安全啓発センター」で展示される。乗客が書き残した遺書や、客室乗務員が書いたメモなど6通。うち2通は遺族から提供された実物、4通は写真。事故の教訓を次世代に伝えようという取り組みで、遺族も協力したという。

実物が展示されるのは、客室乗務員の対馬優美子がノートに書いたメモと、元日航社員の白井まり子さんが時刻表の余白に残した走り書き。対馬さんは「荷物は持たないで」「姿勢を低くしてタオルで口と鼻を覆ってください」など、不時着した際に機内アナウンスする内容などを自分のノートにまとめていた。白井さんは家族の名前に続けて「怖い、怖い、怖い、助けて、気持ちも悪い、死にたくない」と走り書きしていた。

「パパは本当に残念だ」「本当に今迄は幸せな人生だったと感謝している」と、7ページにわたって社員手帳に記した河口博次さんが家族へ宛てたメッセージ。谷口正勝さんが機内備え付けの紙袋に「子供よろしく」と書いたメモなど、乗客4人の遺書は写真で展示。

【日航安全啓発センター】1985年8月12日に墜落したジャンボ機の後部圧力隔壁や座席などの残骸を保存・展示するため、日航が4月、羽田空港の整備地区にあるビル2階に開設した施設。過去の事故の資料なども集めているが、予約すれば見学できる。

電話03 3747 4491。(2006.7.9 日経新聞掲載)

小職も年間通すと飛行機出張が多いほうだが、航空機事故の確率は極めて低いものの乱気流で激しい揺れが続けば、あわや「事故」が頭をよぎる。生死をさ迷う極限状態で瞬間的に遺書を書いた6人は、ある意味で「覚悟を決めた勇者」でもある。小職はどうか、どうなるかいささか疑問だが？航空機事故は大量犠牲者が生じる。2度とこの種事故は起きてほしくない「悲願」であります。合掌。